Art Exhibition

SICF11 グランプリアーティスト展

青木美歌『animagraphy』

MIKA AOKI EXHIBITION “animagraphy”

2010 年 10 月 28 日（木）～31 日（日） ショウケース（スパイラル 1F）

青木美歌 SICF11出品作品「fluctuation of life」 Photo: 佐藤祐介

「目に見えなくても確かにそこに存在するもの」を垣間見せる繊細なガラスの異世界

スパイラルは、SICF11のグランプリ受賞者、青木美歌の個展『animagraphy』を2010年10月28日（木）から31日（日）までスパイラル1Fのショウケースにて開催いたします。

青木美歌は、粘菌やバクテリア、ウィルスをモチーフにした繊細なガラスのインスタレーションを発表してきました。

自由に伸び、ゆるやかにうねって螺旋を描き、まるで息づいているかのような有機的な表情をもつガラスの生命体は、静かに私たちに語りかけ、人と人との間に存在する感情の流れや記憶の蓄積、生命のゆらぎなど「私たちの目には映らなくても確かにそこにあるもの」の存在に気付かせてくれます。

10 月に開催される『animagraphy』展では、青山の街そのものを題材に大掛かりなガラスのインスタレーションを展開します。人が環境の影響を受けてその人格を形成していくように、行き交う人々やその想いを吸収して形作られます。青山通りに面したガラス張りの展示スペースであるショウケースの特徴を最大限に利用し、青山という街の生命活動を表現します。

■SICF とは

SICF（スパイラル・インディペンデント・クリエーターズ・フェスティバル）は、自由な感性で質の高い創作活動を行うクリエーター100 組にプレゼンテーションの場を提供しています。2010 年は 5 月 2 日～5 日にかけてスパイラルホールで開催しました。 SICF ウェブ http://www.spiral.co.jp/sicf/

■取材に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。
スパイラル／株式会社ワコールアートセンター 広報部
加藤美穂、清水さえみ、四元朝子（よつもと ともこ）
TEL 03-3498-5605 FAX 03-3498-7848
〒107-0062 東京都港区南青山 5-6-23
E-mail press@spiral.co.jp http://www.spiral.co.jp/

スパイラルは 2010 年 10 月、25 周年を迎えます。

SICF11 出品作品「fluctuation of life」について

青木美歌はSICF11 で5つのガラス作品からなるインスタレーションを発表しました。
標本室を思わせる無機質な空間、暗闇に浮かび上がるガラス瓶。胃や肺、腸など、私たちの体内にある臓器を彷彿とさせる透明なオブジェは、青白い光を浴びてきらめきます。その形状は奇妙に美しく、ガラス瓶の中で静かに息づいているかのような不気味さもたたえています。
「アメーバから今の私の形になるまでの過程で、こうなり得たかも知れない、または 100 万年後、こうなり得るかも知れない内臓」をイメージして制作したというこの作品は、「新しい生命になろうとしているうごめき」や、「まだなにものにもなっていない、なにものになるかわからない状態」、「生命のゆらぎ」を表現しました。
SICFでは、人知や科学の及ばない生命の不可思議さという抽象的な概念を、ガラスという素材の制約に縛られず私たちの眼前に現出させた独創的な表現が高く評価されました。

審査員コメント（50 音順･敬称略）

浅井隆 （アップリンク社長、webDICE 編集長）

ガラス細工の工房の様子をテレビで見た事があるが、ガラスは高温で溶けて、ドロドロ、クニュクニュして、冷えて固まるとパキンとする性質の物体なのだということがよくわかった。叩くとコンコンと音のする固いガラス瓶の中にある青木美歌のガラス製の作品は、事実としてはパキンと固まっているはずなのだが、その粘菌のような物体は成長し変化していくようにみえる。ガラスの有機的なフォルムと時間が美しく瓶詰されている。

佐藤尊彦 （株式会社ビームス 販売促進本部 プレス 係長）

出展者と来場者で混み合い、熱気溢れる会場内で、青木さんの“ひんやり”としたブースは美しい緊張感を放ち、一際目を惹いていました。また容器の中で標本のようにディスプレイされたガラス製の内臓をモチーフとした作品群は、頭上からの光によって神々しく輝いていました。
彼女はこれまでも有機的な粘菌、ウィルスやバクテリアなどをモチーフに、無機的なガラスという素材で作品制作してきました。その生命が持つ熱や意思と、ガラスが持つ冷たさや繊細さの対照性に私は刺激されたのです。
10 月の展示は、外と内の境界線が曖昧な展示スペースでのインスタレーションです。この特徴的な場所で、環境と人格の影響をどのように表現するのか今から期待が高まります。

南條史生 （森美術館館長）

青木美歌はガラスを作品の素材としてきた。しかし彼女の作品は、ガラスという制約に縛られず、あるいはガラスの工芸的な世界にとどまることなく、想像力を羽ばたかせて、異世界へと飛翔する。
これまでのシリーズは、通常われわれには見えない、ウイルスやバクテリア、粘菌などをテーマにしたアモルフな形態のきわめて繊細なガラス細工だった。今回、2010 年の春に SICF で発表した作品は、人間の内臓をテーマにしている。人間の内部は、最も身近な異世界であり、通常は忌避したい不気味で不可解な世界だともいえる。しかし青木は、それが切実な物理的、医学的、哲学的探求の対象であり、我々の生と直結していることを伝えている。それは見方を変えれば繊細でもろく、奇妙に独創的な美しい形態を持った彫刻にもなり得ることを示してくれた。青木のもたらしたこのユニークなヴィジョンこそ、高い評価の根拠であろう。
本展では、その生命のかそけきコミュニケーションの形を、さらに発展させて見せてくれるだろう。

岡田勉 （スパイラル チーフキュレーター）

青木の作品は固くて冷たくて壊れ易いガラスが素材である。
だけれども彼女の手に掛かると、飴細工のように柔らかく有機的な印象で、あたかも生命が宿っているかのようである。バクテリア、内蔵、感情、生命等その作品は通常我々の見えないものを表現している。
時間、永遠、生命等、そもそも芸術は目に見えないもの、宇宙の誕生や生命の生成等多くの秘密を露にし表現する事がミッションで、そこから人々は夢や希望や勇気を得て来た。ガラスと言う素材のもつ可能性の探求とそこから生じる新たな見えざる光に注目したい。

開催概要　SICF11 グランプリアーティスト展　青木美歌『animagraphy』

会　期	2009 年 10 月 28 日（木）～31 日（日） 11：00～20：00　会期中無休 ※28 日（木）20：00 よりオープニングパーティを開催します
会　場	ショウケース （スパイラル 1F）
お問い合わせ	03-3498-1171（スパイラル代表）
主　催	株式会社ワコールアートセンター
企画制作	スパイラル

PROFILE

青木美歌（あおき みか）

武蔵野美術大学工芸工業デザイン科ガラス専攻卒業。卒業制作優秀賞受賞。第 11 回岡本太郎現代美術展入選。2010 年 5 月 SICF11 でグランプリを受賞。今年 9 月には BIWAKO ビエンナーレに出品予定。

青木美歌オフィシャルウェブサイト：www.sing-g.net

Photo: 市川勝弘

【作家コメント】

内臓をただ寄せ集めても生物にはならないこと、炭素や水素をただ混ぜ合わせても細胞は生まれないこと、これらの事実には「見えているものに生命を与える見えない力」が働いているとしか思えない不可思議さがあります。

これまでは、粘菌・ウィルス・バクテリアなどをモチーフにした繊細なガラスのインスタレーション等を発表してきました。細菌・ウイルス・バクテリアのような原始的な生命形態に共通していることは、細胞あるいはそれよりも下位の物質が、外界や他の物質とコミュニケーションを続けている様がそのまま「形状」を為していることです。彼らは、構造が単純な分、見えない関係性によって生命と成っているという姿を如実に表しています。

生命体は主に遺伝子で形の作り方を決めていますが、形そのものは要素と環境が代謝を繰り返し、ひとりでに作りあがるものです。スパイラルのショウケースは多方面がガラス張りとなった開放的なスペースなので、この空間を利用して、青山通りを歩く人々とその思いを代謝し続け自己形成してきた「都市」という生命活動の造影を試みようと思っています。

【主な展示】

2006　武蔵野美術大学　工業工芸デザイン学科　ガラス専攻卒業　卒業制作優秀賞受賞
　　Jeans Factory Art Award　準グランプリ受賞
2007　個展「のびる硝子」（ mitate ギャラリー/西麻布）
　　「Born In HOKKAIDO」（北海道近代美術館）
2008　個展（ savoir vivre/六本木）
　　第11回岡本太郎現代芸術賞展入選、展示
　　個展「shining rain 展」with HONDA PLUS(ギャラリーle-bain/西麻布)
　　個展「飛ぶための準備」日比谷パティオ art コンテナ展示
2009　個展「まといの硝子」（mitate ギャラリー）
　　アートフェア東京 2009 出品
　　個展（もりもとアートギャラリー/銀座）
　　個展「束の間の器かがやきの詞展」with HONDA PLUS(ギャラリーle-bain)
2010　アートフェア東京 2010 出品
　　SICF11 グランプリ受賞（スパイラルホール/青山）
　　個展「fluctuation of life」(PLSMIS/青山)
　　「夜の庭」(59RIVORI-AFTERSQUAT ギャラリー/Paris)

　　現在　丸沼芸術の森にアトリエを構えている。

【作品提供】

2007 YOSSY LITTLE NOISE WEAVER アルバムジャケット
2008 LUNA SEA ベストアルバムジャケット

過去作品 Text: 青木美歌

『her songs are floating』(2007 年)
北海道近代美術館30周年記念展示「BORN IN HOKKAIDO」
インスタレーション
高橋コレクション所蔵

真っ暗な空間の中、古い車が青い光に照らされてぼうっと浮かび上がって見える。
フロントガラスやドアミラー、ボンネットの中、錆びてめくれてしまった傷など、いたるところから増殖する菌類のようないきもの。
ルーフから上空へ、また根を車中に下ろしはびこるいきもの。列をなして歩いている透明な虫のようないきもの。
後部座席に乗り込むと、海底に沈んでいるかのような感覚に陥る。月明かりに照らされたいきものが静かにきらめいている。
滅びゆくものに宿る様々な感情、記憶、時間が、ひそやかに育ち、目に見えない胞子のようなものを散布する。
その営みは空間全体を包みこむ。
まるでそこで彼女が歌っているかのように。
すべてを受け取った生命は、自己の体内で接合と分裂を繰り返し、吸収し、成長していく。

Photo: 小牧寿里

『IDNo.1.M.A05/10/1981』(2009 年)
サイズ(160x170x65mm)

学歴・ルックスなどでランク分けされていると聞く精子バンクから発想したもの。
目に見えない程微細な生命の一部に託された、大きな期待やイメージ。
それが注射器で吸い取れるものとしてそこにあるのだとしたら。その観点に立つと、私の細胞一つ一つにも私というパーソナリティが無数に息づいているようにさえ感じられる。
採血した血にはその患者の名前と生年月日がタイトルのようにラベリングされる。この作品においても作品毎に特定の人物の名前を含めている。

Photo:坂本光三郎

NEWS スパイラルマーケット賞受賞アーティスト 藤田 伸 個展を同時開催！

会場：スパイラルマーケット（スパイラル 2F）

SICF11 で、ネズミやヘビ、トラなど十二支に登場する身近な動物をモチーフに、精巧でありながらどこか温かみを感じさせる寄木細工の作品を発表し、スパイラルマーケットのバイヤーがプロの視点で選ぶ「スパイラルマーケット賞」を受賞した藤田伸。
繰り返し模様の仕組みの面白さに魅せられ、フェドロフ、エッシャー、ペンローズなどをテーマに、長年にわたり研究を重ねてきた藤田伸が織りなす作品世界を是非ご覧ください。

■藤田伸 プロフィール

1982 年多摩美術大学デザイン科グラフィック専攻卒業。フェドロフ、エッシャー、ペンローズをテーマにくり返し模様の仕組みを研究。1999 年『連続模様の不思議』藤田伸著/岩崎美術社。2001 年日本デザイン学会年間論文賞。図版収録・掲載：NHK 教育番組『マテマティカ第 7 回くりかえしのまほう』他，多数。2010 年、SICF11 にてスパイラルマーケット賞。 藤田伸オフィシャルウェブサイト http://www.shinfujita.com/

NEWS 10 月 22 日（金）、SICF ウェブがリニューアルオープン スペシャル・インタビュー第 1 弾はSICF11 グランプリアーティスト 青木美歌

URL: http://www.sicf.jp/ （10 月 22 日公開）

SICFウェブは 10 月 22 日（金）、さまざまな才能が交差するSICFから見いだされた新しい才能と、彼らが形づくる新しいカルチャーシーンが垣間見える刺激的なウェブサイトへと生まれ変わります。

新しくなったSICFウェブでは、イベントの開催概要や応募要項などの基本情報をいち早くお伝えするとともに、SICFで受賞した若手クリエーターに焦点を当てその横顔に迫るスペシャル・インタビューや、日本のカルチャーシーンを牽引する豪華な審査員陣からのコメント、ライブ感溢れるビジュアルとともにお届けするイベント・レポートなど、出展を考えている方のみならず幅広いアートファンにお楽しみいただけるコンテンツをご用意します。

記念すべきスペシャル・インタビュー第 1 弾には、SICF11グランプリ受賞者である青木美歌のアトリエを訪問。ガラスという素材の魅力を最大限に生かした奇妙で繊細な異世界を創出し、見る者を魅了してやまない青木の作品制作の裏側をご紹介します。

NEWS SICF12 参加クリエーター募集日程が決定！

2011 年 5 月 2 日（月）～5 月 5 日（木・祝）に開催するの SICF12 の参加クリエーター募集日程が決定しました。美術、デザイン、ファッション、音楽、映像、CGなどあらゆるジャンルから次代のカルチャーシーンを担う若き才能を募集します。

●募集要項配布開始	2010 年 10 月 28 日（木）
●公募期間	2010 年 11 月 1 日（月）～2011 年 2 月 28 日（月）
＊第 12 回SICF開催日程	2011 年 5 月 2 日（月）～5 月 5 日（木・祝）

最新情報はSICFウェブ（http://www.sicf.jp）で随時お知らせします。